

一般社団法人

香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部
事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜5番丁62-1
四国医療専門学校 作業療法学会内
(一社)香川県作業療法士会事務局

URL:<http://kagawa-ot.or.jp/> E-mail:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp

「歴史を紡ぐ」

いわき病院 小松 博彦

足利尊氏、聖徳太子、源頼朝。これらの人物に近年、共通するのは、本人とされる肖像画が違う人物なのではないかということだ。歴史研究ではかなり優勢な意見となっているようで、教科書によっては「～とされる肖像画」と掲載されているものもある。

史実の伝達が、現在のような記録媒体や伝達道具があれば間違いがないか、ということそうでもない。伝えようとする人や時代背景などに影響されれば、正しく伝えることそのものが難しくなる。そもそも、どれだけの歴史が伝達されているのか。風化し、伝えられなかった歴史も多くあるのではないか。そんなことを考えていたとき、愛媛新聞 ONLINE 上に「紙芝居で表現『紫雲丸』沈没事故 11 日で 61 年」という記事を見つけた。

紫雲丸沈没事故といえば、1955年5月11日、高松港から岡山県宇野港を目指していた紫雲丸が第三宇高丸と衝突し沈没。修学旅行生ら168人が犠牲になった痛ましい事故だ。

記事によれば、遺族の菅艶子さん＝愛媛県西条市＝が、自らの体験をもとに発行した紙芝居を上演させようと市民の輪が広がっているという。菅さんの兄は当時、庄内小学校（愛媛県西条市）のPTA 会長として、6年生の長女とともに紫雲丸に乗船。紙芝居には、兄が長女を助けるため船内に戻り、二人が抱き合ったまま遺体として見つかったことや、小学校の校庭に建立された「みたまの塔」のことなど、全部で 13 の場面が描かれているようだ。制作に至る過程や思いも記事には紹介されている。

菅さんの活動だけではなく、高松市の西方寺では毎年法要が行われており、犠牲となった方々がいた各地で、紫雲丸沈没事故は「忘れてはいけない歴史」として紡がれている。

61年前のこの歴史は、「学校教育における水泳の導入」「瀬戸大橋建設」など、われわれに直接かわりのある歴史に大きな影響を与えた。歴史を学び、伝え、紡ぐことの意義を改めて考えさせられる。作業療法士としてかかわる対象者の歴史についても同じ。紡ぐのは、われわれの責務である。

先輩の声

No.21 西山脳神経外科病院

鷹取 宏治

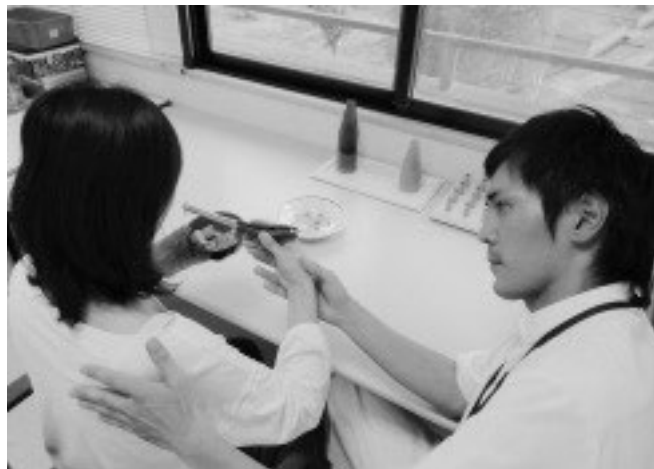
(13年目)



私が作業療法士になって今年で13年目となりました。はじめに入職したのは、愛媛県にある介護老人保健施設で、そこでは老健での入所リハ、通所リハ、訪問リハと維持期のリハビリテーションに8年間携わっておりました。その後、現在の西山脳神経外科病院に入職し急性期のリハビリテーションに携わっております。維持期から急性期と少し変わった？経歴です。維持期では生活リハビリを主体とした関わりを行い、その経験を活かしながら現在の職場では機能訓練やADL訓練、在宅の住環境整備・福祉用具の選定などを行い、患者さんが安心して退院できるよう頑張っております。しかし、私は1年目からたくさん失敗していましたし、現在の職場に就職した時も分からないことが多く、失敗をしました。新人の作業療法士の方、異動された方も分からないことがあり、「失敗してはいけないという」不安を抱きながら作業療法を行っているのではないかと思います。しかし、失敗する事で新たな技術や知識を得て成長するもので、失敗を恐れず目の前にいる方に対して全力で作業療法を行って頂きたいと思っております。最後に私の好きな言葉「山本五十六」の名言を紹介させていただきます。

“ やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば、人は動かじ。”

新人の皆さん、患者さん・利用者さんやそのご家族の方のために、場所や施設が違えど一緒に頑張っていきましょう。



No.22 介護老人保健施設 千手苑

細川ふみ代
(12年目)

今回、文章が苦手な私に突然、原稿依頼がありうまく伝わるかが心配ですが入職して10年程経ちましたので自らを振り返りながら書かせて頂きました。

さかのぼれば中学生時代の職場体験に始まり、リハ実習で老健に行かせて頂きました。当時から多職種が各々の視点で利用者様一人ひとりを見つめサポートしている姿が凄いなと感じていましたし、ゆっくり、じっくりと利用者様に関わることが性格的に合っていたこともあり、老健と私との間に何かしら縁というものを感じています。

入職当初はPTの先生だけでしたが、同時期頃にSTの先生も入職され三職種が揃いました。

そのことで、私一人では解決できない問題や目が届いていない課題等にも助言を下され、おかげで視野が広がったような気がします。あっという間に月日は流れましたが、今では姉妹のように助け合いながら楽しく仕事をさせて頂いています。他の職種の方達も同様に病棟に行けば誰に聞いても利用者様の状態を詳しく教えて下さいます。時には難題を投げかけられる時もありますが、みんなで意見を出し合いながら解決策を模索する過程を楽しんでいます。



とはいえストレスがたまったり、マンネリ化してきます。そんな時は趣味の運動以外に、コスプレに挑戦?することもあり、もともとノリの良いスタッフ達が行事の際に、すすんで行きます。先日も田植えをする人の扮装をしたところ、あまりにも似合っていると喜んで下さり複雑な心境になりましたが利用者様の笑顔や懐かしむ姿に感動に近い思いを感じました。

この10年の間に介護・医療の世界が大きく変わりました。私達にとっても今、決して良いとは言えない現状です。しかし私達のいる現場は疾病を抱えていながらもリハビリに希望を持ち、生きることに関心な方が沢山いらっしゃいます。

そんな方々を施設のモットーである3K(感謝・感動・希望)の想いを大切にしつつ支援し、私自身これからも初心を忘れず成長していきたいと思っています。



No.10

病院紹介



香川県立中央病院

当院は2014年3月に新病院に移転し、早2年が過ぎました。

現在作業療法士は7名であり、日々臨床業務に従事しております。

当院の特色として急速に病態が変化する時期に集中して治療を行う急性期医療に特化し、重症患者を中心に受け入れる3次救急医療を重点化しております。その為、作業療法を実施する患者さんも重症な方が多く、その内訳は脳血管疾患が約30%、手の外傷患者さんなど運動器疾患が約40%、がんその他の診療科から紹介される内部障害が約30%を占めています。

各作業療法士が患者さんに提供する作業療法の質の向上を図るため、随時勉強会を積極的に開催しており、学会などでの報告も行っております。

今後とも香川県の基幹病院として県民に安全・安心な作業療法を提供できるよう、日々努力していこうと思っております。



自助具紹介

三豊総合病院 作業療法室

作品タイトル：簡易アームスリング

●作品概要

1：目的、対象

頸髄損傷など中枢部の筋力低下により上肢挙上が困難な患者に対し、挙上位の補助を行い、ADL 動作獲得を図るため
肩・肘関節屈筋群 MMT2 以上

2：効果、特徴

セッティングが PSB より設置・着脱が簡便。
点滴台などの吊るす支柱があればどこでも設置が可能。
スプリント、その他自助具を使用することにより ADL へとつながる

●製作・使用方法

1：必要な材料（費用含む）

- ・フェルトもしくはキルティング生地 ・コットンコード（約 1 m×2 本）（12×29）
- ・すべり止めシート（8×15）
- ・セラバンド（90、強度は対象者に合わせる）・D 環（2 個）

2：製作手順

- ①型紙に合わせ、フェルト・布をカットする。（図 1）
- ②外側から布・フェルト・滑り止めの順に重ね合わせてミシンで縫い合わせる。
すべり止めシートは上肢支持部分（中央部）にあわせて縫う。（図 2）
- ③両側端に D 環を付け、セラバンドを通して結ぶ。結び目に紐を通して結ぶようにする。
紐も輪にするように結ぶ。（図 3）

3：使用方法

- ①点滴台などに吊るし、使用手に装着する。
- ②高さの調節など患者様にあわせて設置

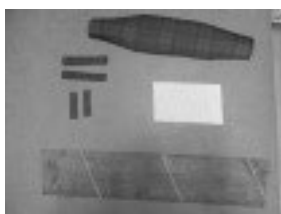


図 1



図 2 内側

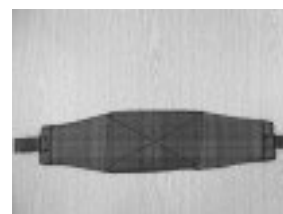


図 2 外側



図 3 両端取り付け部



全体図



図 1

保険部事業

『県士会員における行政・地域での活動状況調査』報告

保険部担当理事 田 埜 篤 司

昭和40年に理学療法士及び作業療法士法が制定されて以来、我々作業療法士の活躍の場(職域)は主に病院・施設などが中心でありました。一般の方(国民)にとっては作業療法士の存在について、またその活動についても十分に認識・理解されているとは言い難い現状が続いていたものと思います。

このような背景の中で(一社)日本作業療法士協会は、2008年から2012年の5年間、「作業療法5・5計画(OT5・5PLAN 2008-2012)」を、2013年から2017年までの5年間は「第二次作業療法5ヵ年戦略 地域生活移行・地域生活継続支援 作業療法5・5計画(OT5・5PLAN 2013-2017)」を継続し、『2013年から2017年の5年間も引き続き、作業療法士の5割を身近な地域に配置すべく、全力を注いでまいります。』と掲げています。

香川県においても全国と同様に、作業療法士の活動の場は病院・施設がほとんどであり、一般の方(県民)にとってはその存在や活動についても十分に認識・理解されているとは言い難い状況です。これからは地域で活躍する作業療法士を育成し、活動を実践していくことが求められる時代になってきたと思われまます。

事実、一昨年度は善通寺市・多度津町・宇多津町にて健康教室や公開講座を開催し、昨年度からは高松市にて健康教室を開催するなど、少しずつではありますが作業療法士の行政・地域における必要度が評価されつつあります。

この度、県士会保険部では作業療法士が行政・地域において、過去5年程度にどのような活動を実施されているか現状を把握することを目的に、アンケート調査を実施致しました。これまでにご返信いただいた施設様における現状を取りまとめました。これらの活動については、県士会に依頼があったものや、各所属の施設へ依頼があって実施されているものも含まれます。

我々作業療法士が、行政・地域からの依頼を受けて、どのような場で活動を実践されているのかを把握し、今後も我々が一般の方(県民)に必要とされる作業療法士であり続けるよう、共に頑張りたいものです。

アンケート調査にご回答いただきました施設会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

- アンケート調査期間：平成28年4月18日～5月21日
- アンケート回答施設：40施設(内、活動実態あり19施設、活動実態なし11施設)

〈主な活動内容(順不同、詳細は割愛)〉

- | | | |
|---------------------|------------------------|-------------------------|
| ・ 自立支援協議会 精神保健福祉部会 | ・ 仲間作りの健康作り体操教室 | ・ 地域ケア会議 |
| ・ 福祉用具支援専門員 講師 | ・ 医療介護ネットワーク会議 運営委員会 | ・ 転倒予防班 講師 |
| ・ のびのび教室 講師 | ・ 二次予防事業教室 講師 | ・ 介護認定審査会 委員 |
| ・ 中学校での職業講話 | ・ タートルの会健康教室 講師 | ・ 地域陶芸教室 |
| ・ はつらつ介護予防教室公開講座 | ・ 介護支援専門員研修課程 講師 | ・ 地域公開講座 |
| ・ ガイドヘルパー 講師 | ・ 自立支援協議会 精神保健福祉部会 | ・ 健康教室 講話 |
| ・ IT サポーター養成講習 講師 | ・ 地域包括支援センター連絡協議会 | ・ 健康教室 講師 |
| ・ 難病患者支援従事者研修会 講師 | ・ 認知症サポーター養成講座 講師 | ・ 居場所作り教室 |
| ・ 訪問指導事業(訪問) | ・ 認知症初期集中支援チーム チーム員会議 | ・ 訪問～ 通いの場作り |
| ・ 健康長寿講座 講師 | ・ 難病患者地域支援ネットワーク研修 講師 | ・ エリアミーティング |
| ・ 高齢受刑者等社会復帰支援指導 | ・ 難病患者地域支援ネットワーク事業 講師 | ・ こころの健康展 |
| ・ 在宅医療プロフェッショナル大作戦 | ・ 地域リハビリテーション連絡協議会 | |
| ・ 地域リハビリテーション専門職会議 | ・ 地域リハビリテーション事業 介護職員研修 | |
| ・ リハビリテーション広域支援センター | ・ 連絡協議会委員 | ・ 地域連携診療計画書に関する合同委員会 など |

第18回 香川県作業療法学会のご案内とお願い

会員の皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じ上げます。平素は(一社)香川県作業療法士会の活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、第18回香川県作業療法学会が下記の通り開催される運びとなりました。本学会が専門職としての知識研鑽と相互の情報交換、学術向上の場として会員の皆様が交流でき有意義な会と成り得るよう、運営委員一同、学会の成功に向けて努力いたしております。ご多忙中とは存じますが、皆様のご参加と演題へのご応募を宜しくお願い申し上げます。

記

1. テーマ 『いきいき生活支援～目標へ挑戦する作業療法士～』
2. 会 期 平成29年1月22日(日) 9:00～16:00
3. 会 場 丸亀市綾歌総合文化会館アイレックス
(香川県丸亀市綾歌町栗熊西 1680 TEL:0877-86-6800)
4. 主 催 一般社団法人 香川県作業療法士会
5. 内 容

◎特別講演

『脳卒中後遺症者の就労へ向けた訓練の実践について (仮)』

社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンター障害者支援施設にじ
作業療法士 福澤 至 先生

◎指定演題(3分野を予定)

①生活行為向上マネジメント ②地域包括ケアシステム ③認知症初期集中支援

◎演題発表

県士会会員による公募

◎自助具・治療器具コンテスト

県士会会員、県内の作業療法士養成校学生による公募

6. 参加費 会員：1,000円、非会員：2,000円、他職種・一般・学生：無料
7. 生涯教育ポイント 2ポイント

以上

〈第18回香川県作業療法学会 運営委員会 事務局〉
かがわ総合リハビリテーションセンター

リハビリテーション部 作業療法科 馬場広志

〒761-8057 香川県高松市田村町1114番地

TEL:087-867-6008 / FAX:087-865-3915

E-mail:kagawaot18@yahoo.co.jp

勉 強 会 案 内

第50回日本作業療法学会 札幌2016

【日時】2016 / 9 / 9(金)~11(日)

【会場】ロイトン札幌 / ホテルさっぽろ芸文館 / 札幌市教育文化会館

【主催】一般社団法人 日本作業療法士協会

【運営事務局】株式会社コンベンションリンケージ

〒060-0002 札幌市中央区北2条西4丁目1番地 北海道ビル

TEL:011-272-2151 FAX:011-272-2152

第2回スプリントセミナー『腱損傷』

【日時】平成28年9月25日 9:00~17:00 (受付8:30~)

【会場】総合病院回生病院 新館5階 大会議室

【研修内容】手指腱損傷に対する基礎的知識の習得と実際に臨床で使用するスプリントの作成実習

【受講費】8000円 (※テキスト代とスプリント作成に必要な材料費)

【定員】40名 (※先着順)

【申込方法】メール件名に「第2回スプリントセミナー受講申し込み」と明記し、①氏名 ②所属施設
③所属住所 ④連絡先アドレス ⑤職種 (経験年数) を記載し、必ず返信が可能な個人
メールアドレスを用いメールにて下記事務局まで申し込み下さい。

【問い合わせ】香川ハンドセラピー研究会事務局

E-mail:kagawa.handtherapy@gmail.com

福祉用具研修会

東讃地区

【日程】平成28年10月2日(日)

【時間】14:00~16:00 (受付13:30から)

【場所】香川県福祉総合センター 研修室

【内容】身の回り動作、自助具の作り方について

【申し込み期間】平成28年9月23日(金)

【定員】20名(先着順・参加費無料)

西讃地区

【日時】平成28年9月4日(日)

【時間】10:00~12:00 (受付9:30から)

【場所】ユープラザうたづ 視聴覚室

【内容】身の回り動作、自助具の作り方について

【申し込み期間】平成28年8月26日(金)

【定員】20名(先着順・参加費無料)

【問い合わせ・申し込み】

医療法人社団三和会 しおかぜ病院 リハビリテーション部 前田 悠志

〒764-0021 香川県仲多度郡多度津町堀江4丁目3番19号

TEL:0877-33-2545 FAX:0877-33-3125

※申し込み方法の詳細は、香川県土作業療法士会ホームページをご参照ください。

平成28年度香川県訪問リハビリ症例検討会のご案内

高松・小豆島・東讃地区

【開催日時】平成28年8月17日(水) 19:15~20:45

【場所】高松協同病院

【申し込み・問い合わせ先】

香川県訪問リハビリ研修実行委員会事務局

阪本病院リハビリテーション科 松下圭一

E-mail:matsushita@idm-hcg.co.jp

第1回 ソーシャルフットボール 四国チャンピオンズリーグ **SPRING STAGE** in 香川

いわき病院 作業療法士 北村 文照

平成28年4月9日(土)東部運動公園で第一回SFB四国チャンピオンズリーグを開催致しました。大会主催は、JSFA*でありフットサルを通じて「人とつながり、社会とつながり、世界とつながること」が理念です。今大会は、初めて四国4県が揃い、また岡山県も含め、5県でのリーグ戦が行われました。年2回(春・秋)のステージを経て四国一を目指す大会です。香川県以外は数年前よりチームが存在しており、毎年、大阪で開催される大会に出場されたり、昨年10月には四国代表チームで全国大会にも出場したりしています。香川で四国リーグを開催した背景には、高知県チームの活動に感化されたからです。フットサルを通じて、作業療法士らが休日に精神障害をもつ人と集い、障害者だからといって特別な方法や手段を採らず、ごく当たり前に、フットサルを一緒に楽しんでいました。このチームから、今大会開催の提案を受け、香川県でも代表チームを立ち上げようと考えました。デイケアプログラムなら、他の病院にも声掛けすれば交流のきっかけになり、選手確保できると思い始めました。参加する目的意識は様々でも、練習にはその都度30名近く集まるようになりました。結果、三光病院、五色台病院、しおかぜ病院、いわき病院の合同チーム「まんてガンバ!讃岐」を立ち上げました。選手は7名でしたが、当日の大会には、志度中学校のサッカー部の応援、各病院から応援者が沢山来てくれました。成績は1勝3敗でしたが、フットサルを通じて多くの人と出会い、つながりを感じました。また、今回初めてスポーツを通して、他病院と連携しチームを作りました。試合に出るまでに出場費用や移手段など課題も沢山ありましたが、定期的にスタッフが集まり選手の思いに応えられるよう真剣に悩み互いに努力しました。チームが成長するには、連携と挑戦が必要です。今後は、さらに連携を拡大させ、秋季大会に挑戦し、楽しみ、共に成長を目指し頑張ります。



*JSFA：日本ソーシャルフットボール協会

連載企画③ 第二弾

「訪問リハビリテーションに従事する 作業療法士に求められる役割」

第3話

三豊市立西香川病院
診療部 リハビリテーション科

主任 作業療法士 香川 久圭



これまでの2回の連載の中で、訪問リハビリテーション（以下リハ）を取り巻く本邦の社会背景や、訪問作業療法士に求められる役割や能力について解説した。今回は、訪問作業療法士に関連する協会や県士会などの活動状況などについて触れておきたい。

近年、日本理学療法士協会、日本作業療法士会、日本言語聴覚士会が一枚岩となって訪問リハに従事する療法士の質の担保、量的拡充の為、認定訪問療法士の創設（日本訪問リハ協会）や訪問リハ管理者研修、訪問リハ地域リーダー育成研修（日本訪問リハ振興財団）、訪問リハ実務者研修、訪問リハ症例検討会（都道府県士会）などといった様々な取り組みが全国規模で実施されている。管理者研修や地域リーダー育成研修は各都道府県、各事業所の該当者の参加となるが、実務者研修は昨年度までの実績として、全国で延べ約5450名（内、県内は約150名）の作業療法士が修了するなど、訪問リハに対する意識の高さが現れた結果となった。訪問リハの役割は、地域包括ケアシステム構築の観点からも、これまで以上に重要になっていくものと予測される。障害者や高齢者が住み慣れた地域で安心して安定したその人らしい生活を送ることの出来る地域社会を創生していくために、訪問リハという生活期の地域リハステージで活躍出来る人材育成を継続して行い、訪問リハに従事する作業療法士の質的、量的充実が必要不可欠であると考えている。



学術部からのお知らせ

平成28年度の学術誌は、昨年度より更に充実したものを目指し、県士会員の皆様に提供していきたいと考えております。

つきましては、

- ① レクリエーション・アクティビティ・自助具・スプリントなどオリジナルのアイデアカードを出していただける方
- ② 平成29年1月頃に開催される県学会で演題発表される方

以上の①②に該当する方に、掲載していただける原稿を募集しております。①にしましては今年度の学術誌に掲載予定、②にしましては、来年度の学術誌に掲載させていただこうと考えております。

なお、ISSNの登録をしているので編集委員（その分野の経験ある県士会員）からの修正、加筆をお願いすることがあるかもしれませんが、その際はご了承協力の際を宜しくお願い致します。

詳しくは下記連絡先までお問い合わせ下さい。ご協力の程を宜しくお願い致します。

● 問い合わせ先

医療法人ブルースカイ松井病院

〒768-0013 香川県観音寺市村黒町 739

リハビリテーションセンター OT 岩田 恵里

TEL:0875-23-2111 / FAX:0875-23-2100

Eメール：jimu@matsui-hp.com

～リレーエッセイ～



前回までで38回という長期にわたり連載してきましたリレーエッセイですが、今回をもって終了することになりました。しかし、違う形で継続していきたいと考えていますので次回からリニューアルしてお届けできるよう広報部にて検討していく予定です。長らくのご愛読、誠にありがとうございました。

事務局連絡

入会 大江 望花
 三井 貴史 (三豊総合病院)
 宮武 理子 (かがわ総合リハ)
 山内 康広
 山口 美佐 (麻田総合病院)
 友信 水希 (マルチン病院)
 岩本 早織 (四国こどもとおとな)
 井上はるな (リハセンター)
 藤井 麻莉 (リハセンター)
 上枝 亮介 (リハセンター)
 金崎 彩香 (滝宮総合病院)
 石井小百合 (すこやか苑)
 藤川真裕子 (高松協同)
 元木 詩夕 (おさか脳外)
 町川 栄里 (高松赤十字)
 萩原 智和 (橋本病院)
 小林 浩実 (しおかぜ病院)
 細谷かぐや (吉峰病院)
 松木 彩紗

退会 山下 真吾 (岩本病院)
 大西奈津子 (すこやか苑)
 岡田 香 (五色台病院)
 池田友梨亜 (三豊総合)
 田村 実咲 (徳島 異動) しおかぜ病院

異動 岡野 友治 (吉田 HP)→ウツミ整形外科医院
 藤田 英輔 (永生 HP)→自宅
 山下 良二 (おさか脳外)→穴吹リハ
 前田 真弓 (自宅)→しおかぜ病院
 大喜多仁美 (岡本荘)→不明

求人票

施設名:医療法人和光会 前田病院
 住所:〒761-8054 高松市東ハゼ町824
 施設までの交通機関:コトデンバス鹿角線「はぜ」停留所徒歩1分
 TEL:087-865-7111
 FAX:087-864-3566
 URL: <http://www.maeda-hosp.com/>
 関連施設:医療法人和光会 高松老人保健施設フローラ
 介護付有料老人施設 ナーシングケアホーム・クローバ
 社会福祉法人 絆里会 ケアハウス榎の実
 施設概要:外科・内科・肛門科・整形外科・麻酔科・胃腸科
 循環器科・リハビリテーション科
 病床数:96床(一般病棟36床 療養病床60床)
 外来平均:150人/月
 施設基準:運動器Ⅰ 呼吸器Ⅰ 脳血管疾患Ⅲ
 業務:外来及び病棟でのリハビリテーション業務
 募集人員:若干名
 採用予定:随時
 勤務時間:8:30~17:30
 休日:1ヶ月8休制(日曜・祝日は基本休み)
 待遇:応相談 交通費別途支給
 賞与:2回/年
 加入保険:健康・厚生・雇用・労災
 選考内容:提出書類・・・履歴書(写真付)資格証コピー
 書類受付・・・随時
 選考方法・・・面接、適正検査
 日程・・・随時
 見学:電話連絡の上日程調整後可
 連絡先:前田病院 総務課 石川 までお願い致します。



■(一社)香川県作業療法士会ニュース No.68■

編集長:木村勇介

編集委員:松永智香・山崎悠加・山岡亜裕美・高橋真理
 善相原健史・瀬知杏奈・安藤瑞基・大岸未佳
 真鍋奈菜・水口未紅・鎌田雄大・高橋優里